

令和 3年 9月

内仲英 学位論文審査要旨

主 査 磯 本 一
副主査 梅 北 善 久
同 藤 原 義 之

主論文

Cytoplasmic-only expression of maspin predicts unfavorable prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma

(細胞質局在型マスピンの発現は膵管癌患者の不良予後を予測する)

(著者：内仲 英、坂部友彦、花木武彦、徳安成郎、坂本照尚、本城総一郎、藤原義之、梅北善久)

令和3年 Anticancer Research 41巻 2543頁～2552頁

参考論文

1. Prognostic significance of pre-surgical combined platelet count and neutrophil-lymphocyte ratio for patients with hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌患者において術前血小板数と好中球リンパ球比の組み合わせを用いた術後予後予測因子の検討)

(著者：内仲 英、網崎正孝、柳生拓輝、森本昌樹、渡邊浄司、徳安成郎、坂本照尚、本城総一郎、齊藤博昭、藤原義之)

令和元年 In Vivo 33巻 2241頁～2248頁

審査結果の要旨

本研究は、癌の浸潤・転移を抑制する癌抑制遺伝子として知られているMaspin (mammary serine protease inhibitor) の細胞内局在と病理学的因子・予後との関連性の検討を膵癌においてしたものである。腫瘍の10%以上に細胞質のみの強い発現が認められた場合、maspin陽性と定義し、maspin陽性は、無再発生存期間と全生存期間が短くなることがログランク検定で示された。また、Cox多変量解析ではmaspin陽性が無再発生存期間と全生存期間短縮の独立した要因であることが示された。さらに、maspin発現細胞株にmaspinを標的としたsiRNAをトランスフェクションしてmaspinを抑制し、浸潤能について検討したところ、maspinの抗腫瘍効果として浸潤能が影響を及ぼしている可能性が示唆された。本論文の内容は、細胞質局在型 maspin の発現は膵管癌患者の独立した予後不良因子であり、抗腫瘍効果として浸潤能と関連している可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。